

環境調査結果のお知らせ

令和8年4月18日9時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、魚類に有害とされるコクロディニウム・ポリクリコイデスが最高で1 cell/mL、シュードシャットネラ・ベルキュローサが最高で1 cell/mL確認されました。また、主に麻痺性貝毒の原因種とされるアレキサンドリウム属が最高で4 cells/mL確認されました。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度)	深度 (m)	海洋環境			プランクトン			
		水温 (°C)	塩分	溶存酸素量 (mg/L)	シュードシャットネラ・ ベルキュローサ	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	珪藻	アレキサンドリウム 属
A 中学校前 (-)	0	20.4	25.9	9.4	0	0	11,200	0
	2	21.2	27.8	9.4	0	0	3,150	1
	5	19.7	29.0	8.1	0	0	1,500	1
	10	19.0	29.6	6.2	0	0	3,950	0
	B-1	18.7	29.7	4.0	0	0	850	2
B 光松 (-)	0	19.8	28.0	7.6	0	0	450	0
	2	19.7	28.3	7.6	0	0	500	3
	5	19.5	28.9	7.1	0	0	600	0
	10	19.1	29.4	6.5	0	0	300	2
	B-1	17.9	30.2	3.3	0	0	90	0
C 大鹿 (-)	0	19.8	27.6	8.4	0	0	-	3
	2	19.7	28.4	8.0	0	1	-	4
	5	19.5	28.9	7.6	0	0	-	0
	10	19.0	29.5	7.0	0	0	-	0
	B-1	17.9	30.2	3.7	0	0	-	0
D 水試小割前 (-)	0	19.2	28.6	7.7	1	0	-	4
	2	19.2	28.6	7.6	0	0	-	0
	5	19.2	29.1	7.1	0	0	-	4
	B-1	19.1	29.1	6.8	0	0	-	1

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3
				浦ノ内湾
コクロディニウム・ポリクリコイデス	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—
アレキサンドリウム属	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

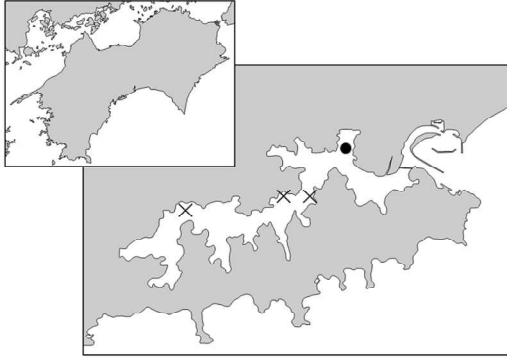
※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。

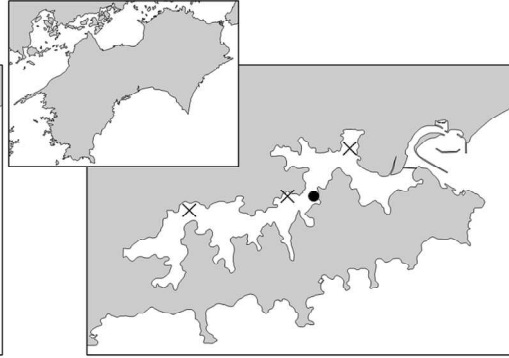


- A: 中学校前
- B: 光松
- C: 大鹿
- D: 水試小割前

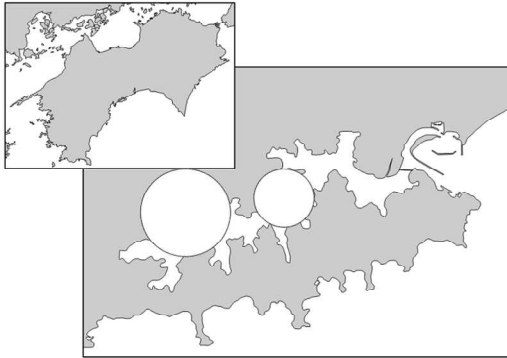
シュードシャットネラ・ベルキュローサ
最大細胞密度



コクロディニウム・ポリクリコイデス
最大細胞密度



珪藻
最大細胞密度



アレキサンドリウム属
最大細胞密度



凡例

プランクトンの細胞密度を示す円の大きさ
円のサイズが大きいほど、プランクトンの数が多いので注意してください。



注意・警戒を示す円の色

黄・赤色の円が確認された場合は、魚介類に悪影響が生じる可能性がありますので、注意してください。
基準値は、「参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準」を参照ください。

注意基準の値以上



警戒基準の値以上

